

秋田放送

活動名	ABS アナウンサー読み聞かせ隊
実施期間	令和 5 年 9 月～令和 6 年 2 月
実施回数	会場 6 回

【事業実施の成果・課題】

子どもたちは、物語の世界に引き込まれて笑ったり涙があふれたり。その表情に胸を熱くしながらアナウンサーたちは物語を読み進めていく。やはり「読み聞かせ」は対面で行うのが一番だと改めて感じます。

ところで、小学校からの応募で多いのは、読み聞かせと職業講話のセット、対象は高学年というもの。読み聞かせというと、小学校低学年以下の子どものイメージがあり、ギャップを感じていました。

しかし、アナウンサーの仕事のひとつとして朗読を聞き、読むことに関心を持ったなどの感想が寄せられています。今後も年齢を問わず読み聞かせ活動をしていきたいと思います。また、アナウンサーの仕事紹介は、職業選択や働くということを考える時間になったと学校側からありがたい感想をいただいているので、こちらも継続して取り組みたいと考えています。

今年度は初の試みで子ども向けワークショップにおじゃまして、赤ちゃんや未就学児、その母親にも読み聞かせの楽しさを届けることができました。家庭での読み聞かせの時間が増え、親子のきずなが深まるお手伝いのできたのなら幸いです。次年度もイベントの主催者などにも声がけして、幅広く応募してもらえるように努めたいと思います。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<酒井アナウンサー>

赤ちゃんから小学高学年まで幅広く参加してくれた。親子で発声練習をしたほか絵本の内容や言葉について興味を持ってもらう参加型の内容にした。

<柴田アナウンサー>

戦争物の外国作品を朗読し、勉強したり友だちと遊んだりできることに感謝の気持ちをもって毎日を過ごしてほしいという気持ちを込めた。

<太田アナウンサー>

朗読に感動し涙を流す児童がいた。感受性豊かな子どもたちを見て私も活力をもらった。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

- ・登場人物が目の前にいるような感じがする読み聞かせに感動した。(泉小児童)
- ・朗読を聞いてすごく心が安らいだ。何回聞いても飽きないと思うくらいで、楽しかった。(高清水小児童)
- ・家での読み聞かせのヒントをもらった。工夫してみたい(あそびのはじまり・保護者)
- ・読み聞かせでは発達段階に合わせた本を選んでいただき心に響く朗読を聞いた。働くことについて責任感や使命感、やりがいについて児童たちは理解を深めることができた。(土崎小教員)
- ・まもなく巣立つ 6 年生にとって貴重な経験になった。来年度はぜひ全校児童を対象にお願いしたい(下浜小校長)
- ・読むだけでなく発声練習や関心を引き付ける会話を交えて読み進めてもらい、生徒は身を乗り出して、最後まで集中して楽しんでいた。(きらり支援学校教員)